

# I 活動報告

## 課題研究 I 「教師教育研究の成果と課題の検討」

担当理事：浜田博文 山崎準二

### 1. 課題研究スタート時の問題設定

『教師教育研究ハンドブック』の部構成を手がかりにして、これまでの教師教育研究の研究レビューを積み重ね、教師教育研究の全体マップを作成する。さらに、それを更新することによって将来的には同書の改訂へとつなげられるようにする。同ハンドブックの構成は第一部から第五部まであり、これら全ての内容を任期3年間のうちに検討し終えることはきわめて困難だと予想する。また、課題研究2、課題研究3、研究交流・若手支援で検討される内容と重なるところがある。そこで、ハンドブックの第1部に関する研究レビューを丁寧に進めていくことを課題研究1での授業の柱に据える。そして、他の課題研究の内容を考慮しながら、適宜、共同開催の研究会を設けて進めていく。

### 2. 部会メンバー

- 朝倉雅史（筑波大学）
- 栗原峻（学習院大学大学院生）
- 高谷哲也（鹿児島大学）
- 高野貴大（独立行政法人教職員支援機構）
- 田中里佳（上野学園大学）、
- 中尾豊喜（大阪体育大学）
- 長谷川哲也（岐阜大学）
- 早坂めぐみ（秋草学園短期大学）
- 三品陽平（愛知県立芸術大学）
- 村井大介（静岡大学）
- 望月耕太（神奈川大学）
- 山崎奈々絵（聖徳大学）

### 3. これまでの活動概況（時系列）

#### (1) 第1回公開研究会（課題研究Ⅲと共催）

- 2018年1月20日（土）、14時～17時、学習院大学
- 山崎準二（学習院大学）「教師教育研究の視野と構造～『教師教育研究ハンドブック』編集作業を経ての問題提起」

#### (2) 第2回公開研究会（課題研究Ⅲと共催）

- 2018年5月26日（土）、14時～17時、学習院大学
- 藤田英典（共栄大学）「生活環境の構造変容と1990年代以降の教育政策・教師教育政策の展開」

#### (3) 第1回部会研究会

- 2018年7月8日（日）、14時～17時、学習院大学
- 高野貴大（筑波大学大学院生）「教師教育研究における研究対象と目的に関する一考察—『教師教育研究ハンドブック』第1部第5章の検討を中心に—」

- (4) 第2回部会研究会
- 2018年8月20日（月）、14時～17時、学習院大学
  - 望月耕太（神奈川大学）『教師教育研究ハンドブック』の第1部第7章の検討
- (5) 第28回大会の課題研究I「教師教育研究の成果と課題の検討」
- 2018年9月29日（土）、15時～18時、東京学芸大学 司会：山崎準二
  - 報告：高野貴大（筑波大学大学院生）「第一部第5章「教職の専門家としての発達と力量形成」の検討」  
望月耕太（神奈川大学）「第一部第7章「教員文化と同僚関係」の検討」  
浜田博文（筑波大学）「第一部第6章「教職専門性基準」の検討
- (6) 第3回部会研究会
- 2018年11月11日（日）14時～17時、学習院大学
  - 朝倉雅史（早稲田大学）「日本における教員養成・採用・研修の史的展開と現状に関する考察－第一部第9章および第11章の検討を中心に－」
- (7) 第4回部会研究会
- 2019年1月6日（土）14時～17時、学習院大学
  - 田中里佳（上野学園大学）「日本における教師の実践的知識とPCKについての一考察－『教師教育研究ハンドブック』第四部：第3章：第3節・第4節の検討から－」
- (8) 第5回部会研究会
- 2019年3月4日（月）14時～17時、学習院大学
  - 村井大介会員（静岡大学）「「教員免許状制度」と「教職課程認定」は如何に語られてきたのか－『教師教育研究ハンドブック』第4章・第10章に関する言説分析－」
- (9) 第6回部会研究会
- 2019年4月20日（土）14時～17時、学習院大学
  - 中尾豊喜（大阪体育大学）「スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、チーム学校－『教師教育研究ハンドブック』第5部第9章3節・4節と第10章の整理と課題提起－」
- (10) 第7回部会研究会
- 2019年6月30日（日）13時～17時、学習院大学
  - 長谷川哲也（岐阜大学）「教師教育研究はどのように展開されてきたのか－教育社会学や量的研究手法に着目して－」（第2部第6章、第7章の検討）  
三品陽平（愛知県立芸術大学）「教師教育研究における質的研究方法の抱える課題－『日本教師教育学会年報』掲載論文の分析より－」（第2部第8章の検討）
- (11) 第29回大会の課題研究I「教師教育研究の成果と課題の検討（その2）－これからの教職の在り方を問い直す－」
- 2019年9月22日（日）13時～16時、岡山大学 司会：浜田博文（筑波大学）
  - 報告：朝倉雅史（早稲田大学）「教師の専門的能力と「学び」から教職を問い直す－先行研究と概念の検討を中心に－」  
田中里佳（上野学園大学）「教師教育者に関する研究動向と今後の課題－成人学習論の視点を加えての提起－」

村井大介（静岡大学）「誰の視点から教職を問い直すのか—「教育職員免許状」に関する言説を事例にして—」

(12) 第8回研究会（オンライン開催）

- 2020年4月13日（月）11時～13時
- 早坂めぐみ（秋草学園短期大学）「教員の連帯を視野に入れた教師教育研究にむけて—『教師教育研究ハンドブック』第1部第13章『教職員組合運動』の検討から—」

(13) 第9回研究会（オンライン開催）

- 2020年5月17日（日）14時～17時
- 栗原峻（学習院大学院生）「開放制教員養成のその制度論を超えて—『教師教育研究ハンドブック』第4部第1章第13節『一般大学における教員養成』の検討から—」

高谷哲也（鹿児島大学）「専門的な学習共同体としての校内研修における教師の学習～何がどのようなプロセスを経て成立していくことなのか？～」（第四部第3章第6節「専門家の学びの共同体」・第五部第6章「校内研修の改革」）

(14) 第10回研究会（オンライン開催）

- 2020年5月31日（日）13時～15時
- 山崎奈々絵（聖徳大学）「『教育実習』に関する記述の検討—『教師教育研究ハンドブック』第4部第1章第18節『教育実習と学校参加体験』の検討から—」

(15) 第30回大会の課題研究I「教師教育研究の成果と課題の検討（その3）—今後の教師教育研究に向けて—」

- 2020年9月12日（土）9時～12時、オンライン開催、司会：山崎準二（学習院大学）・浜田博文（筑波大学）
- 報告：高谷哲也（鹿児島大学）「教師集団による研究・学習の場で教師教育研究者が果たす役割について」  
三品陽平（愛知県立芸術大学）「教師教育領域における質的研究論文の質について—方法（論）的要件の観点より—」  
長谷川哲也（岐阜大学）「『教員育成』の政策動向と「教師教育」の研究課題について」

#### 4. 成果と課題

これまでの教師教育研究において、基本的な概念の解釈等に十分な共通理解ができていないことが浮き彫りになった（例：教師・教員、専門家・専門職、専門性・専門職性、教師文化・教員文化など）。また、「開放制」概念や「大学」観などの解釈には多様性があり、近年政策的に頻出する教職の「高度化」概念と研究的な「高度化」の間にも相違があるはずだが、論者はそのことを必ずしも意識していないことなどの問題も指摘された。最近の議論では教師の職能発達や自己研鑽の行為に「学び」という用語が用いられる傾向が高まっているが、その意味内容が不明瞭で、研究用語としての妥当性が問われるべきであることも提起された。近年の「働き方改革」に係る課題としては、生徒指導や特活を教師の「周縁的業務」と捉える傾向があるが、その妥当性についても、教師教育研究の一環として検討すべきであるとの意見も出された。

以上の他にも毎回の討議において数多くの研究上の課題が出された。当初はハンドブックの第1部を中心にレビューする予定で始まったが、メンバー各自の研究関心を重視して検討対象を広げていった。他方で、メンバーの研究実績の限定性から、当初目指していた「教師教育研究の全体マップの作成」までには至らなかった。

最終報告書に各メンバーの問題意識に基づいて今後の教師教育研究の課題とハンドブック改訂に向けての論点などを記述することとしている。全体としては、研究対象に関わる課題、研究テーマ設定に関わる課題、研究方法論上の課題、など広範にわたる内容を収録する予定である。将来のハンドブック改訂の際に参照可能な内容を遺したいと考えている。